

Title	アリストテレス國家學(青木巖譯, 第一書房刊)
Sub Title	
Author	近山, 金次(Chikayama, Kinji)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.1 (1937. 4) ,p.162- 163
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370400-0163

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

考察を以て終つてゐて、その國の現在の政治經濟などの状況が極めて簡略であるが爲に、極めて時代と遠い感なきを得ない。勿論卷末に三十數頁を費して歐羅巴の人口、資源、海外領土、歐羅巴を統一する力、それを分離する力といふやうな綜観的の敍述はあり、そして地誌の基礎的部分をなす地質、地形、氣候などの問題に就ては記述が極めて正確であつて、この點では標準的な地理書であると言へる。然し現状の説明が不充分であるのは聊か物足りなさを感じしめる。また後者はイギリス人の著作であるが爲に、イギリスの部分が全然省略されてゐて、我々にしてみれば極めて不便であり、その形式や内容も前者と同一であつて、一國々々に就て、その全體的な考察が省かれてゐるのが遺憾である。然るに表題に掲げたボガーダス氏の「歐羅巴」は、もとよりその形式は普通の歐羅巴地誌と大差あるものではなく、歐羅巴の諸國を北西部、東部、南部に統一し、各國々に就て細かい地域的考察を施しながら、一國全體に就てその人口、天然資源、各方面の産業、交通、貿易などに關し現状の理解に相當努力を傾けてゐる。前二著に缺けた全體的な考察は本書に於てこれを補ふことが出来る。殊に第一編の歐羅巴總説は百七十頁を費して、單に歐羅巴の自然環境のみならず、その人文現象に就ての記述も相當に詳細である。

また重要都市の記述に於て、比較的綿密にその歴史的背景を説明してゐるもの本書の特色であるといふべきであつて、それが爲に普通の地理書に比して一段と潤ひがあり深みがあるやうに思はれる。更にまた本書がアメリカ人の手に成れるものであるが故に、特に或る國を省略したり或は特に或る國に就て詳細に過ぎたりす

るやうな缺點がなく、また偏見と思はれるやうな節も別に認められない。只だ更に註文し得ることゝ言へば、歐羅巴の國際關係に就て、少し總説の記述が詳細であつてほしいとか、一國々々に就てもその國際上に占める位置に關して一應説明が欲しいとか、ドイツやロシヤやイタリーの姿がもう少し生きりと説明されてほしいといふやうな點があるが、然し大體よく纏つた歐羅巴地誌として推賞出来ると思ふ。因みに著者はベンシルヴァニア大學地理助教授とある。(有賀春雄)

アリストテレス國家學（青木巖譯）

ニコライ・ハルトマンはアリストテレスとヘーゲルとの相互關係を論じた其の名著の中でアリストテレスの名が顯著なる割合にはアリストテレスの研究が貧弱であることを慨嘆し、「アリストテレスに關しては最も熱心なる者と雖も現今に於ては概要的敍述が含んでゐる傳統的なもの以上には彼に就て殆んど知つてゐない」のが通例であることを指摘し、之は最近のプラトン研究が豊富なるに鑑みて全く驚くべき事柄であると述べてゐる。

我國の哲學界に於て今より十年前『アリストテレス』なる一書をものして此の偉大な哲學者の生涯及び著書と其の思想體系とに就て忠實な紹介の勞を取られた青木巖氏は此の度、そのアリストテレスの著書にして『古代ギリシヤの殘した最も驚異すべき著作』と言はれたポリティカ（國家學）を譯出せられた。此の書の importance は改めて論ずるまでも無いが、最近マキヤヴェリ的政治

家が輩出し、マキヤヴェリ研究も流行してゐる折柄、そのマキヤヴェリと對蹠的立場にあるアリストテレスの國家學が原典に最も忠實な姿で紹介せられたことは敢へて意義なしとしない。ギリシヤ語を學んで原典に直接觸れることが極めて至難な事柄である以上、忠實な翻譯は最も必要な入門書であり、而もギリシャ、ラテンの忠實な翻譯書に乏しい我國に於て此の出版は一つの喜ぶべき贈物と言はねばならぬ。

最後にイミッシ版（一九二九年）の原典に飽くまで忠實に従つたと言はれる氏の學究的態度は十年前の場合と同じく此の書に於ても誠に謙虛なものであつて吾々の如く古典の研究にたづきはあるものにとつては以て學ぶべき所が多いのである（近山金次）

寄贈交換圖書雜誌目錄

熾仁親王日記 中、下 高松宮家	文祿慶長の役 別篇第一 池内宏	日本一鑑 三ヶ尻浩校訂	昭和十年東洋史研究文獻類目	東洋文庫	東方文化學院京都研究所	東京美術研究所	北海道史 一、五六	埼玉史談 八ノ三	畫說 一、三	日本文化 九	大谷學報 一八ノ一	歴史地理 六九ノ二、三	歴史教育 一一ノ一、一一	青丘學叢 二五	仙臺鄉土研究 七ノ一、二	史潮 七ノ一	史學雜誌 四八ノ一、二、三	金雞學院叢書 一〇七、一〇八
-----------------	-----------------	-------------	---------------	------	-------------	---------	-----------	----------	--------	--------	-----------	-------------	--------------	---------	--------------	--------	---------------	----------------

文化 四ノ一、二
燕京學報 一ノ四

燕京大學圖書館

東京帝大附屬圖書館
燕京大學圖書館

熾京大學圖報 一〇〇、一〇一

風俗研究 二〇一

同 前
風俗研究所

Harvard Journal of Asiatic Studies 一ノ三、四

神社協會

神社協會

人類學雜誌 五二ノ一、二
上毛及上毛人 一二ノ一、二

東京人類學會

上毛鄉土史研究會
東京人類學會

經濟史研究 一七ノ二、三
考古學論叢 四

日本經濟史研究所

日本經濟史研究所
考古學研究會

國學院雜誌 二七ノ二、三
考古學雜誌 二七ノ二、三

考古學論叢 四

國學院雜誌
考古學研究會

國民經濟雜誌 四三ノ二、三
國史學 二九

國史學會

國史學會
國史學會

國史回顧會紀要 三二
密教研究 六一

國史回顧會

國史學會
國史學會

國史學 二九
密教研究 六一

國史學會

國史學會
國史學會